



# モディはもう一人の「建国の父」か？ トランプ化するヒンドゥー至上主義者

インド・ビジネス・センター代表 島田卓



是正されないGDP構成比の歪み  
一次産業への大投資が必要なのに

九月二三日、インドのモディ首相は米テキサス州ヒューストンにあるアメリカンフットボール「ヒューストン・テキサンス」の本拠地「NRGスタジアム」に集まった五万人を超えるインド系アメリカ人の前に、トランプ米大統領と手を携えて颯爽と登場した。

「Howdy, Modi」(いかが、モディさん)と銘打った大会は、ローマ法王に次ぐ最大の観客数を動員した。そのために費やした費用は驚愕の一兆四〇〇〇億ルピー(約二・三兆円)だ。

モディは壇上でトランプを「リーダーとしての素質と自国への情熱、アメリカをもう一度偉大な国の頭でっかちな産業構成になつて

にするとの強固な決意に敬服する」と持ち上げると、トランプは例によって「アメリカはインドが大好き」とツイートし、モディを「多くの紛争を解決し、インド統一を成し遂げたヒンド建国の父」とまで称えた。恐らくトランプは、オバマ前大統領が一番尊敬する真正正銘「インド建国の父」マハトマ・ガンディーという偉大な指導者のことは、ご存じなかったのだろう。

周到な事前準備とインドメディアを動員し、米印二重国籍を持つ二七〇万人から選ばれた五万人を超える観衆にモディが語ったことは、自身の実績と施政方針そのものであった。曰く「過去五年間の年平均成長率は七・五割で、過去いずれの政権も成し遂げられな

った」二〇二四年までにGDPを倍増の五兆ルピーにし、不可能を可能にする「数カ月掛かった税還付を数日にした」「ビジネスをやりやすくし、生活を楽にする。そのために雇用を増やす、とくに若者の雇用機会を」「地方の公衆衛生改善のため、この五年で一億一〇〇〇万のトイレを設置し、ほぼ屋外排泄を消滅させた」「地方の交通網も改善、五年前の五五割から九七割に拡大させた」、そして最後に「インドを新生させることが今の我々にとって最重要の誓い」と結んだ。

しかし、モディが実績として強調した改革は、新生インドを生み出すに足る輪郭となつていのか、はたまたネルーガンディー王朝の築き上げた負の輪郭の一部を崩し

ているだけなのか。新生インド誕生には程遠い。

まず、一四億人のピラミッド型人口構成を持つGDP構成比の歪みは正は手付かずのまま。インドを代表するIT産業などの第三次産業に従事する労働人口は全体の三割程度だが、生み出すGDPは五四・四割にも達する。一方、就労人口の五割近くが従事する第一次産業のGDP寄与率は一六割程度だ。インドはEUや米国を上回る世界最大の牛乳生産国だが、FAO(国連食糧農業機関)によれば、インドでの一頭当たりの牛乳生産に要する費用は米国の約三八倍と想像を絶する生産性の低さだ。第二次産業従事者は約二五割で、GDP寄与率は約三〇割(二〇一八年実績)だ。要は人口構成と真逆

記録した。だが、大幅企業減税による税収減は約一兆五〇〇億ルピー(二・五兆円)と見込まれ、対GDP比財政赤字は三・九割程度にまで拡大、目標とする三・三割の達成は難しくなった。

野党第一党国民会議派前総裁のラフル・ガンディーはこれを「訪米土産」と表現し、二二日のイベント代との合計金額(約五兆円)は一般人の懐から搾取されると訴えた。なるほど、トランプも法人税を三五割から二二割に引き下げている。トランプの手法にだんだん似てきているように見える。

ただ、来年の米大統領選を控え対抗馬、民主党ウオーレン氏は大企業優遇税制の見直しを訴え、一〇年間で一兆ルピーの税収増で、社会保障の財源等に使ひ「資本主義の歪」を是正すると主張している。増税か減税か、それとも現状維持かは、国の状況によって判断は違ふ。ではインドはどうなのか。大企業減税の恩恵は庶民にまで届くのか。インド中央銀行(RBI)の月次消費者信頼感指数調査によ

## 巨象インドの未来

モディ政府は経済活性化を名目に法人税を現行の三〇割から二二割(実効税率は二五・二%)への引き下げに踏み切った。これを受けボンベイ平均株価は二〇一四年五月以来となる五・三割の大幅上昇を

れば、九月時点での雇用情勢見通しは半数以上(五二・五割)の世帯が、今後更に悪化するとみている。悲観的意見が過半数を超えたのは二〇一二年九月の調査開始以来初めてだ。

### 横行する集団暴力 異常な人気裏で何が

そして社会状況も暗い。五月の総選挙でモディが圧勝した以降、イスラム教徒や不可触民、少数民族を集団暴行する事件が多発している。集団暴行団は被害者に「ラーマ神(インド三大神ヴィシシュヌーの化身)万歳」と叫ばせ、ヒンドゥー至上主義を押し付けている。

これに対し著名人四九名が七月二三日、連名でモディに公開書簡を送り「集団リンチ行為の即時禁止」を訴えた。その中には大ヒットした「ボンベイ」のメガホンを取ったインド映画界のスター監督マニラトナムも含まれている。書簡では、インド犯罪統計局のデータを引き、最愛の母国で二〇一六年に八四〇件以上の不可触民

に対する集団リンチがあったこと、それにもかかわらず有罪判決数が減少していることに衝撃を受けたとしている。

更にモディに対し「首相、あなたは国会ではリンチを非難しているが、それだけでは不十分で、犯罪者に対する具体的行動を取るべきだ」としている。

国民会議派のラフルはモディをして独裁者と決め付け、彼に異を唱えようものなら牢獄行きだとし、モディアも支配下に置いたと叫ぶ。卑近な例では現在、国民会議派政権時の商工相や蔵相を歴任したチダンバラム(七三歳)が蔵相時の外資法違反幫助罪でデリー近郊の悲惨な牢獄に繋がれている。

イスラム教徒を排斥し、マイノリティーを庇護するかのように見える。モディが志向しているとしたら、彼が言う「新生インド」とは何なのか。異常な人気不気味だ。(敬称略)